

海津市まちづくり委員会「第２回希少生物保護育成分科会」会議録

開催年月日 平成 19 年 1 0 月 1 6 日（火）
 開催場所 海津総合福祉会館 1 階「研修室 1」
 分科会委員定数 13 名
 会議次第 1. 開会
 2. 会長・副会長あいさつ
 3. 新委員紹介
 4. 協議
 (1) 分科会の活動報告状況について
 (2) 希少生物保護育成について
 (3) その他

会 長	それでは、協議「（１）分科会活動報告状況について」を議題と致します。 事務局より説明願います。
事務局	<事務局より説明> ・ 第 1 回の会議の様様や、資料を市の H P で公開していること ・ 第 1 回の会議録（要約）の承認後に同じく市の H P で公開したいこと等を説明
会 長	続いて、次の議事「（２）希少生物保護育成について」を議題と致します。 事務局より説明願います。
事務局	<事務局より配布資料について説明>
会 長	ただいま事務局から「希少生物保護育成」について説明がありましたが、学術的研究成果、市民活動、行政の対応について、それぞれの立場から、本日配布させていただいている資料の説明及び活動報告等をお願いしたいと思います。まずは学術的研究成果及び行政の対応の部分について森教授からお話をいただきたいと思います。
森 教 授	<森教授説明> ・ 資料 3 『岐阜県西濃地域に遺存分布するハイドジョウツナギ』 ・ 資料 4 『平成 1 8 年度 特定外来生物分布調査結果』
A 委 員	実はハイドジョウツナギを見に行ってみたのですが、素人目にはどれがそうなのか全くわかりませんでした。そのこともあり、保護の方

		法をどうすればいいのか。難しいです。
森	教 授	A 委員さんがおっしゃるとおり、保護するためには分科会としても、どういったものかということを確認しておく必要があると思います。
G	委 員	このハイドジョウツナギは、保護を必要とするような貴重な存在なのですか？
森	教 授	国の天然記念物か？といわれればそうではないですが、分布の最南限である岐阜県のこの地域で分布が確認されたということは、今後、岐阜県の天然記念物になる可能性も大いにあると言えます。
A	委 員	除草剤の使用も懸念されるので、何らかの保護策をとっておく必要があると思います。
G	委 員	猟友会や、漁業組合に所属されているお立場から、資料 4 に掲載されている外来生物の市内での分布状況をご説明いただけますか。
K	委 員	アライグマを見たことはありません。ヌートリアは駆除対象になっており、たくさん駆除しております。ハクビシンも最近見かけ、数頭駆除しました。魚ではブラックバスやブルーギルもたくさん生息しています。
A	委 員	ミシシッピーアカミミガメはここには載っていませんね。
K	委 員	津屋川にたくさんいます。この種が台頭してきて従来の日本のカメは見かけなくなってきました。大きくなると、歯が強いものですから、子どもなんかだと噛みつかれて危険だと思います。
森	教 授	ミシシッピーアカミミガメは成長が早く、また再生産も早い種です。一方、在来種であるニホンイシガメは、年寄りの大きいものばかりで、最近小さいものを見かけなくなりました。再生産がされていないということです。アカミミガメとは再生産のスピードが全然違いますので圧されてしまっているようです。
I	委 員	アナグマも市内に生息していますよね。アライグマによく似ているということもあり、被害の連絡があつて駆除してみるとアナグマだったということがあったのですが、最近、空き家の床下に入り込み、周

K 委 員	辺の畑に被害をもたらすということで駆除の依頼があります。アナグマについてはどうでしょうか。
H 委 員	猟友会でも、農林振興課の依頼で駆除を行っていますが、最近あまり聞きません。珍しいと思います。一般の方は、タヌキなのかアライグマなのかアナグマなのか、判別が難しいかもしれません。 先ほどお話のありました、ハイドジョウツナギが自生する湧水地の件ですが、ここを復活させることで地域貢献したいと考えてみえる大変熱心な方がおみえになります。 希少生物保護育成分科会という会があることと、申し出の件をこの会のテーブルにのせるということを、ご本人にお伝えしてあります。 地域の方が主になって、湧水を復活させるという取り組みをすることは、同地に北方系の希少なイネ科植物が生息していることもあり、本分科会の活動目的である希少生物保護や、まちづくりに繋がるのではないかと考えます。こういった申し出があるということも前提にして、今後のお話をしていただければと思います。 前回の分科会でも申しましたが、根本は水だと考えています。今回のイネ科植物にしても、ハリヨにしても、湧水があるが故の事例だと思います。こうしたことから、湧水地を復活させることが我々の使命・テーマではないかと考えます。
事 務 局	先程来、湧水地の復活についてお話が進んでいますが、行政としてどう関わるができるか、法律的な問題もありますので、それらクリアしながらのお話になると思います。同時に、この団体で具体的に保全についてどういったことができるかという点についても、ご検討をお願いしたいと思います。
A 委 員	いずれにしても、あそこにはハリヨなどの貴重な動植物が生息しています。ですから、湧水地として復活させていく活動が必要です。しかし、ヘドロが多く堆積しているため、浚渫等の工事も必要になってくると思います。 また、隣接する浄水公園ですが、地域の方が捕まえたコイなどの魚を放流してみえます。ところが、そこにもハリヨが生息しております。コイなどの数が多いと、ハリヨにとって好ましくありませんし、子どもたちがコイにえさをやることで、水質の悪化も招いています。浄水公園に、今後魚を放流しないよう、地域の方をお願いをしていく必要があると思います。事情を説明すれば、十分理解していただけると思います。

事 務 局	湧水の方のお話は以上のようなことだと思いますが、閉鎖性水域の魚、ウシモツゴを含めてのお話を森先生お願いできますか。
森 教 授	<森教授の説明> ・特定種だけにこだわることはしないが、その種が生息しているという意味と、魚類の生息種が非常に多いという点で、海津がいかに恵まれているかを多くの人に知っていただく上での指標になり得ると考える。 ・海津市は合併したことによって水環境が非常に多様になった。南濃地区の湧水生態系、海津・平田の輪中地帯におけるいわゆる閉鎖性水域の生態系という2つの特徴的なものがあり、それらの生態系を代表するものとして、それぞれハリヨと、ウシモツゴをあげることができる。また輪中地域の特徴的な植物としてオニバスがある。 ・今後こういった種が継続的に生息できる水環境を作ること、また、それに携わる地域の協働が、これからのまちづくりを進める上で検討が必要な課題になると考える。 ・大江小学校ではウシモツゴに取り組んでいるが、ウシモツゴだけでなく、校下に生息する種の実態を知るという活動を通じて、外来種に関する認識もかなりできたのではないかな。 ・ウシモツゴを里帰りさせるために、いわゆる雑魚を試験放流しているが、これらが世代交代を行うことができれば、ウシモツゴについても生息可能な環境と判断でき、早ければ来年度に、移入することもできるのではないかな。
事 務 局	夏休み期間に水辺環境をテーマにした子どもまちづくり講座を開催しました。大江小学校の児童の参加が、他の学校に比べて大変多かった。これは、こうした活動を通して、子どもたちの関心が非常に高くなっているという現れだと思います。 もう1点、市内の河川の水質という点ではどうでしょうか。特に市内の長除川や大江川、大樽川の水質をよくする方法、美しくする方法などはないでしょうか。
森 教 授	水質は全般的によくはない。環境省が定める基準をパスすればいいというものではなく、本来、その川が持っている水質というものがあるので、それと比較すれば、比較的きれいに見える津屋川においても、ずいぶん悪いといわざるを得ない。 また、長除川や大江川、大樽川の水質をよくする方法については、現在のところないと思う。もともとこれらの川は、津屋川のように湧水をあつめて流れる川ではなく、輪中の溜まり水の集まりであるから、

	津屋川のような透明な水質を求めること自体そもそも無理な話。それでも、水質云々ということであれば、現在の農業体系から考える必要が出てくる。 川ごとの個性があるので、それを基にしたそれぞれの水質を考えればよいのではないか。 別の切り口として、水質そのものではなく、水辺環境を我々が見て景観的に優しい風景（輪中・水郷環境）というものは求めてもいいと思う。
分 科 会 長	続いて地域の皆さんと一緒に頑張って取り組んでみえる活動についてのご紹介をいただきたいと思います。A委員さんよろしくお願いします。
A 委 員	< A 委員報告 > ・下多度へらクラブが教育委員会の生涯学習講座と連携した「子どもへら道場」の活動報告 ・主に水辺環境に親しむ野外活動を行っている。 ・例年、琵琶湖博物館やアクア・トト、河川環境楽園の見学を行っている。先日は岐阜経済大学を訪れ、森教授から特にハリヨについての話を伺った。 ・毎年親子釣り大会を市内10校の小学校に呼びかけ行っている。これまでに延べ8校から参加があった。
分 科 会 長	他の委員さん方も活動の報告等ございませんでしょうか。
K 委 員	< K 委員報告 > ・津屋川のおオフサモの現状について ・津屋川でのおオフサモ除去の活動について ・ボランティアの協力や分科会でのテーマとして位置づけをしてほしい（要望）
森 教 授	< オオフサモの除去に関する森教授の話 > ・「げりらっパ」という若者に支持されている番組の収録に協力。内容は、「水辺の外来種退治大作戦」ということで、津屋川でおオフサモの除去等の模様を収録した。若者に影響力のある番組を利用することで、今後の活動への参加が促進され则认为る。 ・県の河川事業としてオオフサモの除去も行うことになった ・11月中には何らかの方向性を見いだせると思う。 ・事業実施の際には是非、分科会としてもボランティア参加を。

事務局	<事務局説明> ・ 第3回の分科会について説明 ・ 一般市民参加のグループワークを行う
森教授	<森教授よりグループワークの説明>
A委員	<A委員より希少生物保護関係のイベント告知> ・ 田んぼの生き物引っ越し大作戦（下池西部まちづくり協議会） ・ 株池の挑戦 自然を取り戻すために（志津新田区自治会）
B委員	カエルツボカビの流行について、一時、大々的に報道されましたが、現状はどうなっていますか。
森教授	現状では、この東海圏でカエルが顕著に死んでいるという情報は入っていません。また、その他の生物に影響のあるウイルス等の情報も特にありません。 <森教授より情報提供> ・ 農水省（東海農政局）が、環境に配慮した農業のあり方の研究を輪之内町で行って2年目になる。海津市でも、土地改良事業の中で手を挙げれば何か事業化できるかもしれない。 ・ 国営木曽三川公園の抜本的見直しが実施される。現在、要望等を募っている。今後5年間で実施。現在は調査段階である。 ・ いなべ湧くわく水サミット（三重県いなべ市）の様子を報告 ・ 湧水保全フォーラム in 越前おおの（福井県大野市）の開催を紹介
分科会長	次回分科会では、浄水公園隣接の湧水地の問題、津屋川のオオフサモの問題について引き続き協議をお願いしたいと思います。 それでは、大変長時間にわたりまして、ご協議をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして海津市まちづくり委員会第2回希少生物保護育成分科会を終了いたします。